

<1> 5月19日 「万博、能勢電…連想脈々と」

大阪・関西万博が始まった。

残念ながら、いまだ見学できていないのだが、私の友人は初日に出かけた。

たまたまその日は雨と風で、えらい目に遭ったと言いながらも楽しそうだった。

入場に3時間もかかり、大屋根リングの上で初日の目玉イベント、ブルーインパルスが飛来するのを待ったが、悪天のため中止となりガッカリ！

身体が冷えたのでスペインのパビ

リオン横のスペインレストランでコース料理を食べ、赤ワイン、白ワインと、ナント、8杯もグラスで飲んだという。そして帰る時、会計の伝票を見て青くなったと語っていた。赤、白、青、と、自分自身があのミャクミャクと同じ色になったと、笑っていた。

いろいろな国のパビリオン、そして展示、いずれ私も行ってみようとは思いますが、その場に居合わず体験こそ大切なのでは、と思う。

友人が万博に行っている頃、私は実家から大阪の仕事場へ向かう途中、能勢町の国道で車がパンクした。高座の時間が迫る中、いつも立ち寄る喫茶店のマスターがそりゃ大変と、能勢電鉄の駅まで自分の車で送ってくださった。初めての駅、何とか仕事には間に合ったが、駅の名前が美しい。

川西能勢口、絹延橋、滝山、鶯の森、鼓滝…。どれも新緑に映える駅名。

そこで落語「西行」を思い出した。西行は新古今集に94首ものっている歌僧だ。元々は北面の武士だったが失恋して僧になり、有名な「願はくは 花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」と歌った人。

この西行法師が今の川西市の鼓ヶ滝へ歌修業でやって来る。そして作った歌が「伝えきく 鼓ヶ瀧に来てみれば 沢辺に咲きたんぼの花」。すると老夫婦と娘がやって来て、その歌に手を入れたいと言う。生意気なことを、と思いつつ「どう訂正するのか」と聞くと「伝えきく」を「音に聞く」とした方が鼓の縁語となる、そして「沢辺」を「かわ辺」にしたら鼓の皮に通じて良いと言う。今度は娘が「来てみれば」を「打ちみれば」にすればより鼓にちなむではないかと。結局「音に聞く 鼓ヶ瀧をうち見れば かわ辺に咲きたんぼの花」となる。西行は恐れ入ったと礼を言うと、3人の姿が消えた。さては和歌三神が私の慢心をいましめた…と、いい噺だ。

ちなみにタンポポは小鼓の稽古（けいこ）で「タタポポ、タツポン」と洒落（しゃれ）ているのだ。

アメリカ大統領、関税ばかりでは誰も利をトランプププ…だ。

日本の自動車産業がパンクしたら困るよー。（かつら・ぶんちん=落語家）



文珍さんが取り上げた話題はスタートしたみやくみやく人気の大阪万博。

タイトルには「万博、能勢電・連想脈々と」とある。よく知る能勢電鉄と万博とどうつながるのだろうか??? 活字には「西行」の文字も見える。「西行」という落語も全く知らず。さっそく読んで納得。

私にも遠い記憶 しっかりと見なかった千里万博の思い出がある。もっとちゃんと見とけばよかったと今も思う。でも 年老いての今回はもういと。

勢電の駅名はどれもよく知る名前 特に鼓ヶ滝駅はかつて縄文の集まりでよく通った川西の生涯文化センターの最寄り駅。また能勢電界隈には今もたくさん仲間がいる。

懐かしい思い ちょっぴり後ろめたい私の万博への思いを晴れ晴れと。

From Kobe Mutsu Nakanishi

<2> 6月19日 「ウソを重ねて失せものに」

文 化

2025年(令和7年) 6月19日 木曜日

神戸新聞社

〒210-8577 神戸市中央区東川崎町1-1-1

078-362-7056

神戸新聞

落語的見聞録

ウソを重ねて失せ者に…

米の値段が高い。そこで小泉進次郎農相は古米のみならず、古古古米まで備蓄米を放出したら少し値段が下がったとか。当たり前だ。進次郎の米ならシンマイになるのかい？このままだと古代米まで出すのかい？と思うような日々だ。

日本の農業政策の後手後手ぶり、長い間の減反政策、農業従事者の高齢化、米をつくるのに高い肥料代、苗代、多額の耕作機械代、公務員をしていた私の友人は、年金を田ンポに入れて赤字だ、とボヤクことしきり。その友人が唯一、私に言ってくれたギャグは「私は今まで一度も米を買ったことがない」。まるで更迭された大臣のよう。当たり前や、君こそ米農家やないかと一応、ツッコミを入れておいた。

先日某新聞の見出しにあった。一瞬、え？アメリカ

が関税のみならず、日本の米の値段まで管理するのにか？と。よく読むと、USスチールの日本製鉄による買収交渉にて米國が黄金株なるもので買収後もしっかり管理をするといったニュースの記事の見出しだった。

見出しのみならず、記事の中身をしっかりと読まねばの時代、情報過多の時代、偽情報に惑わされないよう、まして、近々、選挙の季節、SNSなんぞでそれが本当とそれが偽情報なのか、しっかりと見ないとエライことになる。

落語「御神酒徳利」ではある日、京の公家さんから頂いた一対の銀の徳利の片方が行方不明に。実は出入りの職人熊五郎が過って水瓶の中に落としたが、酔っ払って、そのことを忘れていた。家に戻り、旦那が徳利が無いと探していたことを女房に語るうちに思い出し、早く謝った方がいいと旦那のところへ戻った。

素直に謝ろうと思ったのに、実は占いで徳利のある場所がわかるとウソをつく。側にあつた算盤で占うのだとハチバチ。これは西の方角、なぜ？二十四と出た、水瓶の中を三十六、見ろ！と出た。探すと、水瓶の中に徳利があつた。

熊五郎は占いの名人ということになり、次々とその場限りのウソをついて、遠く尾道まで。その宿では二十両の金財布が失せものになつたと大騒動。盗んだ宿の女中が病気の親のために取つたと熊五郎に自白、それをさも占いで見つけたようにウソをつく。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せ者になるという、面白い話だ。

ウソ、偽情報に御用心御用心。(かつら・ぶんちゃん落語家)

|| 次回は7月17日 ||

梅雨というのに猛烈な暑さ 街の話題は米の値段の高騰。 農林大臣が小泉さんになって、政府の備蓄米放出古米から古古古米まで放出、安いコメを街に出して、米価を下げる算段が進む。

それに「トランプ関税」の激震 日本製鉄のUS スチール買収に「黄金株登場」等々と新聞見出しが躍る。知っておかねば暮らしが成り立たぬが、何がなんやらわからぬ中、偽情報がそれに輪をかける情報過多の時代。文珍さんが取り上げた落語は 有名な「お神酒徳利」。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せモノになる。自分にもあるあるその場しのぎ・苦し紛れのウソ。でも 今の世の中 偽情報の氾濫インフルエンサーとかいって嘘を嘘である過大広告ビジネスも横行。 御用心ください。